

日本音楽教育学会第36回全国大会 研究発表

2007年11月10日 研究発表F

ブレンデッドラーニングを導入した
保育者養成向けピアノ実技指導(その1)

京都女子大学発達教育学部児童学科

深見 友紀子

研究協力

中平勝子(長岡技術科学大学助教)

赤羽美希(東京藝術大学大学院修了)

保育者養成機関におけるレッスン時間の不足

これまでのさまざまな工夫

ハード面 ～ML(ミュージックラボラトリー)

↓
半ば形骸化

ソフト面～

学生同士(他者)の観察による問題発見・解決(中島, 2002)
練習カルテの活用(今泉, 2004)など

↓
対面式授業(レッスン)における小さな改善策にすぎない

ピアレッスン実技にブレンディドラーニングの考え方を導入

リアルタイムの教室での対面(同期)指導・学習

+

非対面(非同期)指導・学習

ブレンディドラーニング Blended Learning

教育の「質保証」を目指す 集合教育とeラーニングを連携・併用
学習者にとって最適な学習形態の提供を意図しているもの

(eラーニング白書 2007/2008)

eラーニング

情報技術によるコミュニケーション・ネットワーク等を活用した主体的な学習

集合教育の全部または一部を代替する場合
集合教育と組み合わせて利用する場合

実践環境(2006～2007年)

京都女子大学発達教育学部児童学科

児童音楽 I (2年次前期、保育士・幼稚園教諭免許取得必須科目)
～在学生が唯一履修することのできるピアノ実技科目 履修者105名

1週あたり連続2コマ(180分)

常勤教員1名+ピアノ教師4名+声楽教師1名

授業内容

声楽指導(集団レッスン)

ピアノ実技指導(グループ個人レッスン)

コードネーム・楽典の理解(講義 後半のみ)

・ピアノ実技課題楽曲

- ▶ 「子どものうた 200」「続 子どものうた200」(チャイルド本社)
- ▶ 仏教系の保育園・幼稚園などで日常的に歌っている曲
- ▶ 声楽授業で配布した弾き歌い曲

・実技試験

中間実技試験・期末実技試験

練習した曲を3曲自己申告し、抽選で1曲をピアノ弾き歌い演奏

中間実技試験 → 授業・レッスン+ **演奏映像提出** → 期末実技試験



提出の方法

- **KS20(「研修君」 フジノン(株))を利用**
 - **映像録画は通常のビデオデッキと同じ操作**
 - **Mpeg2 で録画, DVD へ焼きつけ可能**
 - **映像ファイルをバーコードで管理できる**

映像提出の条件

2006年度 ～

提出をノルマ、提出回数を成績に加算

中間実技試験後に練習した任意の楽曲

2007年度 ～

提出は任意、提出回数を成績に反映させない
(学生の自主性を重視)

ピアノ弾き歌い模範演奏7曲を反復視聴し、その7曲の録画を推奨

ピアノ弾き歌い模範演奏

「あめふりくまのこ」 「犬のおまわりさん」

「とんぼのめがね」 「しゃぼんだま」

「おもいでアルバム」 「ぞうさん」 「森のくまさん」

ディレクション ～ 深見友紀子・中平勝子

演奏 ～ 山下薫子(東京藝術大学准教授)

3台のデジタル・ビデオカメラ

正面(顔)、斜め後ろ横(手指)、横(全体)の3方向から撮影

教員・保育者養成のためのピアノ実技e-ラーニングコース

曲目一覧

- あめふりくまのこ
- いぬのおまわりさん
- おもいでアルバム
- しゃぼんだま
- ぞうさん
- とんぼのめがね
- もりのくまさん

この教材について

- 使い方
- 動作環境

[もくじの頁にもどる](#)

ぞうさん



指の動き



顔の表情



全体の雰囲気

しゃぼんだま

左手の和音のリズムが単調なため、曲に表情がつきにくいので、左手の音量を抑え気味に弾き、うたで表情をつけましょう。片手(右手)→両手、あるいは両手→片手(右手)になるときに、テンポが遅くなったり、速くなったりするので注意しましょう。「しゃーぼんだーまーとーんーだ」とうたう人が多いです。言葉のまとまりを意識して(「しゃぼんだま/とんだ」とうたうようにしてください。

野口雨情 作詩
中山晋平 作曲

ゆかいに ♩=112

1. しゃぼんだま
2. しゃぼんだま

初心者の人はすべて1の指で
(3 3 2 1)
1 1 1 1

スタッカート軽く

左手控え目に

はずさないように注意

音が低くならないように

間違いやすいので、取りだして練習

音が低くなりやすい

ここで音を切らない

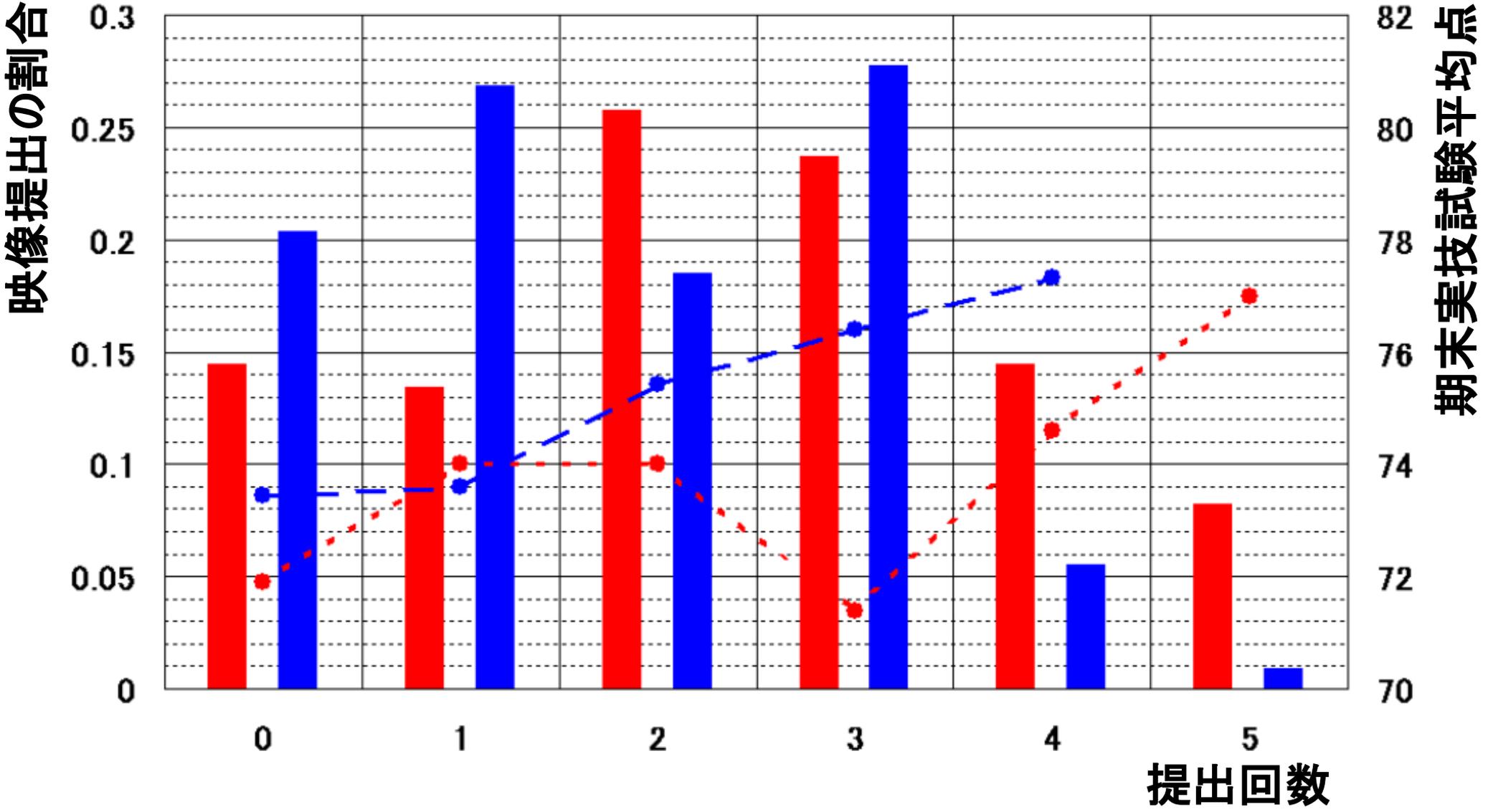
ここで音を切らない

休みをしっかり取る

2006・2007年度の映像提出と期末実技試験結果

映像提出 (回)	年度	録画人数 (人)	平均点 (点)	標準 偏差
0	2006	14	71.9	7.02
	2007	22	73.5	6.53
1	2006	13	74	5.52
	2007	29	73.6	8.01
2	2006	25	74	5.34
	2007	20	75.4	7.26
3	2006	23	71.4	16.06
	2007	30	76.4	6.63
4	2006	14	74.6	3.77
	2007	6	77.3	5.82
5	2006	8	77	4.38
	2007	1	-	-
6	2006	3	72.3	(6.81)
	2007	0	-	-

■ 2006年度 ■ 2007年度 -●- 2006年度得点 -●- 2007年度得点



映像提出と期末試験の平均点

2007年度のピアノ弾き歌い模範演奏提示楽曲と 期末実技試験結果

曲名	学生数	平均点(点)	標準偏差	(楽曲特性)
しゃぼんだま	7	73.6	4.47	比較的平易
とんぼのめがね	12	72.1	6.23	比較的平易
あめふりくまのこ	5	81.6	2.7	情感表現を重視
おもいでのアльバム	10	80.5	7.84	情感表現を重視
もりのくまさん	2	79	1.41	—
犬のおまわりさん	3	81.7	4.46	—
ぞうさん	3	78.7	1.15	—
その他	30	75.1	7.9	—
収録—テスト一致		77	6.51	—
収録—テスト不一致		73.4	6.82	—

演奏映像提出状況、楽曲特性と 期末実技試験平均点

映像提出	期末実技試験平均点	
	楽曲特性 比較的平易	楽曲特性 情感表現を重視
全く提出せず	68.7	73.7
試験での演奏曲以外を提出	70.7	76.3
試験での演奏曲を提出	72.6	80.9

観察点1.

演奏映像提出によってピアノ実技能力に向上が見られるか



映像提出回数は期末実技試験の平均点の押し上げに一定の効果が生じることがわかった。

観察点2.

模範演奏を視聴することで学生の演奏に変化が見られるか



模範演奏を提示することによって、演奏時のイメージトレーニングが円滑に行われ、模範演奏のように演奏したいという憧れが暗黙知的に演奏技能の習得を促すのではないかという可能性を示唆できたが、まだその効果の詳細はわからなかった。

映像提出の効果～学生の意識と実際の効果との差

今後の展開(その2に向けて)

- 映像提出とその映像に対する非対面指導(文字と注意書きを書き込んだ楽譜による)(2006年10月～2007年5月)～分析・検証終了
- 上書き保存映像(一部模範演奏とコメント)の学生への返送、学生はそれを閲覧してさらに練習を積み、再録画(2007年6～7月)～アドバイスの前後の演奏を比較、検討中
- 声楽コンテンツの制作・配信～現在、志民一成氏(静岡大学教育学部准教授、声楽専攻)のディレクションの下、準備中

今後の展開(その2に向けて)

児童学科という学生数の多いフィールドでの実践を蓄積



ピアノ実技指導における
ICT(Information and Communication Technology)
の有効性を明らかにする。



ピアノ実技ブレンデッド・ラーニングの確立

平成19年度科学研究費補助金基盤(C)研究
「教員・保育者養成のためのピアノ実技e-ラーニングコースの設計と開発」
(課題番号 18500742、研究代表者 深見友紀子)